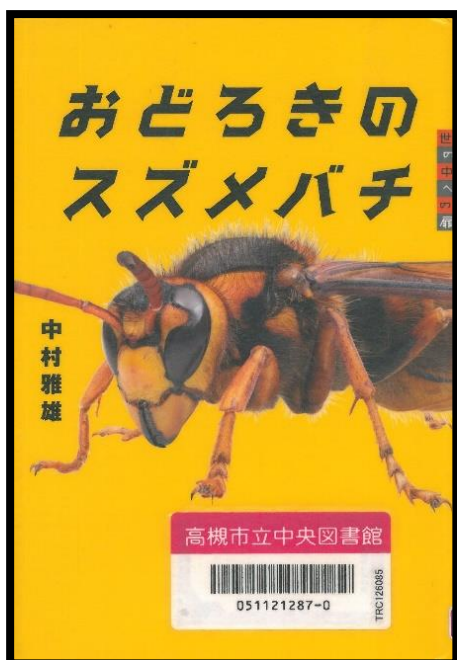


おどろきのスズメバチ

特集: ときどき



中村 雅雄/著

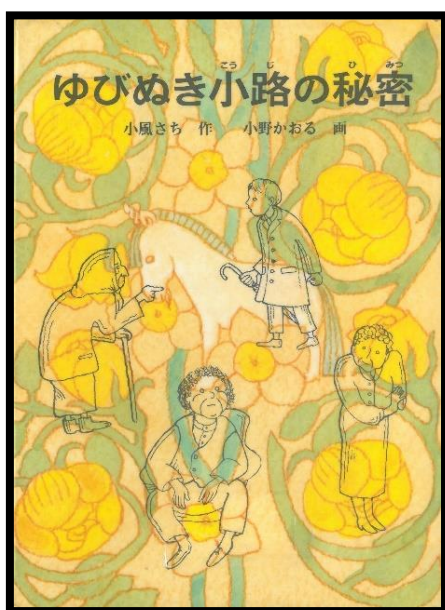
講談社[486]

危険な害虫というイメージのスズメバチ。たしかに、黄色と黒のしま模様を見ると、にげ出したくなります。

スズメバチは単独では生きられず、1匹の女王と数百匹の働きバチとで共同生活をします。はじめは女王1匹でファミリーをつくり、働きバチと一緒に、巣と家族を大きくしていきます。

昆虫の世界ではスズメバチが食物連鎖のトップですが、人は珍味としてこれを食べます。すべての生き物は食べる・食べられるの関係の中で、生きていることに気づかされます。

ゆびぬき小路の秘密



小風 さち/著

小野 かおる/画

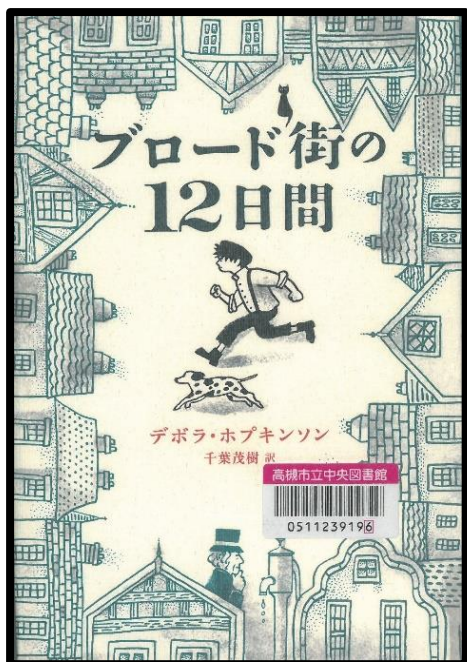
福音館書店[913コカ]

ゆびぬき小路の古着屋で、バートラム少年が買ってもらったコートには、1つだけ銀色に光る星形に糸どめされたボタンがついていた。それは、仕立屋ロザムンドばあさんが会心の一着につける印であり、着る者をゆびぬき小路の過去に連れていく力をもっていた。

バートラムが、ボタンに導かれて出会った過去の人々の秘密をさぐっていくと、それは今の自分につながっていくのだった。

1人の少年が、タイムトラベルをくり返ししながら自分の居場所を見つけていく物語です。

ブロード街の12日間



デボラ・ホプキンソン/著
千葉 茂樹/訳
あすなろ書房〔933ホプ〕

両親を亡くし、一人でなんとか生きているイールは、ある日盗みの疑いをかけられます。無実を証明してもらうため、仕立て屋のグリッグスさんをたずねると、グリッグスさんは重い病気で数日後に亡くなってしまいました。

街の人たちも同じ病気で次々と死んでいき、街は「青い恐怖」でおおわれます。イールは医者のスノウ博士とともに、病気の原因究明に乗り出します。

スノウ博士は実在の人物です。1854年にイギリスで起こった伝染病を元に書かれています。

雨あがりのメデジン



アルフレッド・ゴメス=セルダ/作
宇野 和美/訳
鴨下 潤/絵
鈴木出版〔963ゴ〕

コロンビアの第2の都市メデジンのバリオ地区に住む少年カミーロは、親友アンドレスと毎日二人で町をぶらぶらし、ぬすみをして毎日をやっとの思いで暮らしています。

貧しいバリオに有名な図書館ができてから、町の様子が変わり始めました。カミーロは気になるものの図書館に近づきません。ある日、ついに図書館の中に入ったカミーロは、図書館員から1冊の本を借ります。

貧困と暴力の中で追いつめられながらも懸命に生きる少年のたくましさ、未来へのかすかな希望が描かれています。